

(3) 教育・保育をつないでいく

幼児教育と小学校教育との円滑な接続

- 乳幼児期から義務教育終了までの育ちを見通した教育・保育を充実させていく上で、就学前の教育・保育と、小学校教育との円滑な接続を図ることが求められます。
- 発達や学びの連続性を踏まえ、小学校以降の学びを見通しながら、乳幼児期の教育・保育において「育みたい資質・能力」を育むことが重要となります。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、5歳児後半の子どもの育ちを捉える視点を明確化するとともに、小学校の教師とこの時期の子どもの育ちを共有する取組みを充実させていきます。
- 小・中学校の教師と連携して、幼児教育と小学校以降の教育における子どもの学び方の特徴やよさ、それぞれの場での生活の仕方の違いなどについての相互理解が深まり、認識の共有が進むよう、交流や連携した取組みを進めます。
- 中学校区を単位に地域とともに子どもを育てる教育をめざす「学び舎」のネットワークを通じて、交流・連携を進める中で、互いに顔の見える関係をつくりながら、子どもの学びと生活をつないでいくとともに、保護者もつないでいくことが重要です。
- 園の生活・就学後の子どもの育ちを定期的に見合う場を設定したり、園内・校内研修に互いに参加したり、合同の研究会を実施したりすることなどにより、地域の関係者間の交流・相互理解を深め、さらには双方の接続期のカリキュラム改善等についても連携を進めていくことが大切です。

家庭との連携

- 園は家庭と連携して、子どもの生活に理解を深め、子どもを共に育てていきます。その際、遊びの中で豊かな育ちがあることを具体的に伝えながら、園と保護者が互いに理解を深めていくようにすることが重要です。
- 子どもの教育・保育および子育てに関する専門性、子どもがそこで生活を送っている場であるという特性を活かし、保護者が子どもの成長に気付き、子育ての喜びを感じられるよう子育ての支援を積極的に実施していきます。
- さらには、地域の子ども・家庭に対しても、園の特性を活かした子育ての支援を行うことが大切です。

地域に開かれた教育・保育

- 園と地域の様々な人々との関わりの広がり・深まりから、より多様で豊かな環境との出会いが生まれていくことで、子ども自身が暮らす街・世田谷ならではの教育・保育活動が充実していきます。
- 園が主体的に、開かれた運営を行う中で、地域から乳幼児期の教育・保育についての理解を得ていくことが重要です。さらには地域の様々な資源活用する中で、園と地域が共に子どもを育てる協働的な関係へと発展していくことをめざしていきます。

3 教育・保育の質向上に向けた取組みの充実

- 区と各施設は、それぞれの法人・施設の理念や方針を尊重した上で、「世田谷区教育・保育実践コンパス」で示す「乳幼児期の教育・保育の基本」や「実践の視点（例）」を活用しながら、共通認識の醸成、教育・保育の振り返りを通じた評価、園内研修等の実施、各園の保育者の資質向上などを通じ、実践の質の向上を図ります。
- 「学び舎」のつながりなどを活用しながら、小中学校を含めた地域の関係者が互いに教育・保育を見合う場や対話の機会をもち、つながりを深め、地域全体での教育・保育の質を向上させる取組みを作り出していきます。
- 区は、乳幼児教育支援センターを起点として、区内全ての教育・保育施設を対象に、園内の実践・課題と連動した研修や園内研修・研究の支援など、各園の実践の質向上に向けた取組みを実施していきます。
- その際、乳幼児教育アドバイザーなどの専門人材による、園のニーズに即した支援を充実させていきます。
- また、地域の教育・保育関係者のネットワーク構築とその取組みへの支援などを積極的に実施します。
- さらに、家庭・地域にむけても、実践コンパスに示す乳幼児期の子どもの育ちに関する大切なポイントについて積極的に発信し、家庭や地域と連携して子どもの育ちや学びを支えています。

